



平成 27 年度

新東名高速道路（秦野市寺山・蓑毛地区）建設事業埋蔵文化財発掘調査

みの げ こ ばやし い せき / てら やま なか まる い せき 蓑毛小林遺跡 / 寺山中丸遺跡

（秦野市No.154 遺跡）

（秦野市No.192 遺跡）

主催 （公財）かながわ考古学財団

共催 秦野市教育委員会

蓑毛小林遺跡・寺山中丸遺跡の調査

現在かながわ考古学財団は、秦野市内で5か所の遺跡を発掘調査しています。これらの遺跡の調査は、中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴い実施されています。発掘調査では旧石器時代から近世までの人々の暮らしを示す「遺構」や「遺物」が数多く発見されています。

今回の見学会では、秦野市寺山・蓑毛地区に位置する「寺山中丸遺跡」、「蓑毛小林遺跡」の2遺跡の調査成果と、その調査方法をご覧ください。

寺山中丸遺跡は平成 25 年度 10 月に、蓑毛小林遺跡は同年 12 月に調査を開始いたしました。この2遺跡は小田急小田原線秦野駅から北へ約 3.5 kmの秦野盆地北東部、丹沢山地のふもとに位置し、小蓑毛沢を挟んで隣接しています。

蓑毛小林遺跡は北側の丘陵部から続く南向きの緩斜面に立地しています。標高は 197 ～ 199m で、西側 100m には金目川が、東側数mには小蓑毛沢が流れています。この遺跡では古墳時代を除く、旧石器時代から近世までの遺構や遺物、土石流の痕跡なども見つっています。

寺山中丸遺跡は蓑毛小林遺跡の東側約 100 ～ 200mの、西向きの緩斜面に位置しています。標高は 202 ～ 207m で、西側に小蓑毛沢、東側に中丸沢が流れています。この遺跡では旧石器時代、縄文時代、奈良・平安時代、近世の遺構や遺物が発見されています。



およその年代

35000年前 15000年前 2500年前 1700年前 1300年前 800年前 400年前 1500年前

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

古墳時代

古代

中世

近世

蓑毛小林遺跡

寺山中丸遺跡

※矢印は、今回の調査で発見された遺構や遺物のおおよその時期を示したものです。

※この内容は調査段階のものであり、今後の調査成果や出土品等整理などにより評価を変える場合があります。

蓑毛小林遺跡（秦野市No.154 遺跡）

蓑毛小林遺跡の調査

調査はまず工事用道路部分をⅠ区・Ⅱ区として調査し、続いてⅢ区南・東を調査しました。現在はⅢ区東の旧石器時代の調査を実施しています。

これまでに近世の畑の畝や、1707年に噴火した富士山の火山灰（宝永火山灰）で埋まった溝、寛永通宝が副葬された土坑墓、奈良・平安時代の円形土坑や弥生時代の落とし穴、縄文時代の集石、落とし穴、埋甕などが発見されています。また、旧石器時代の石器製作跡も見つかりました。このほか、はっきりした時期はわかりませんが、旧石器時代と中世～近世の土石流痕跡も見つかりました。

こうした調査結果から、この遺跡は奈良・平安時代～近世は平坦な地形を生かした耕作地として利用され、縄文時代～弥生時代は起伏のある地形を生かして落とし穴を使った猟をする、「狩り場」だったことが分かりました。

今後はⅢ区西の近世遺構、奈良・平安時代遺構を調査する予定です。

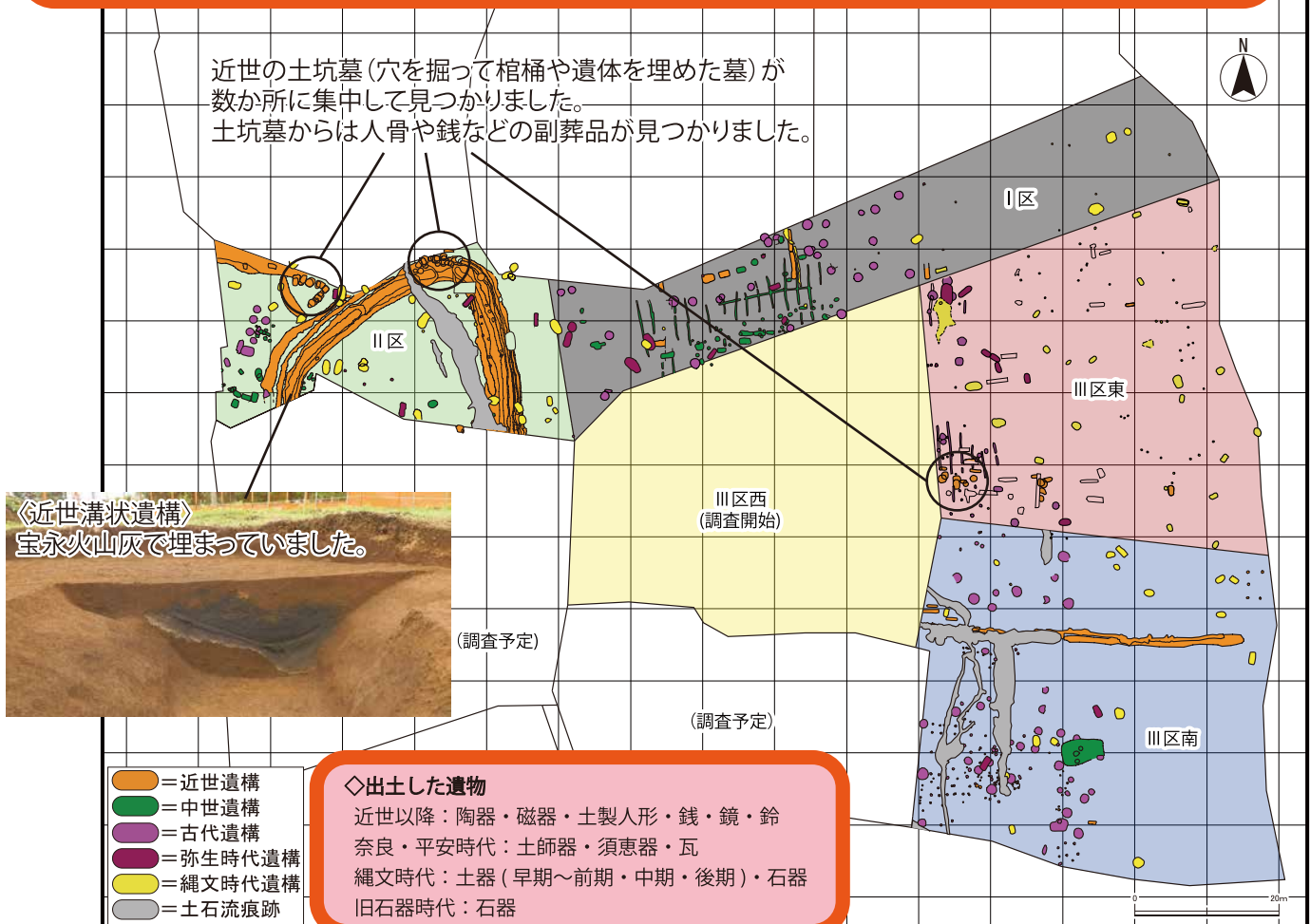
【調査の概要】

※遺構と遺物は、平成27年11月13日時点の内容

- ◇遺跡名 蓑毛小林遺跡（秦野市No.154 遺跡）
- ◇所在地 秦野市蓑毛39外
- ◇調査期間 2013（平成25）年12月1日～調査中
- ◇調査面積 8,724 m²
（Ⅰ区：1394 m² / Ⅱ区：968 m² / Ⅲ区南：2198 m²
 / Ⅲ区東：2000 m² / Ⅲ区西：2164 m²）

◇発見された遺構

- 近世以降：掘立柱建物1棟・溝6条・土坑墓48基・畝
- 中世：竪穴状遺構1基・土坑29基・炉址1基
- 古代（奈良・平安時代）：円形土坑89基・畑2か所
- 弥生時代：落とし穴11基
- 縄文時代：集石7基・落とし穴51基・埋甕・土器集中1か所
- 旧石器時代：石器製作址
- その他：土石流痕跡（中世～近世、旧石器時代）



〈蓑毛小林遺跡で確認された縄文時代～近世の遺構〉

《落とし穴》

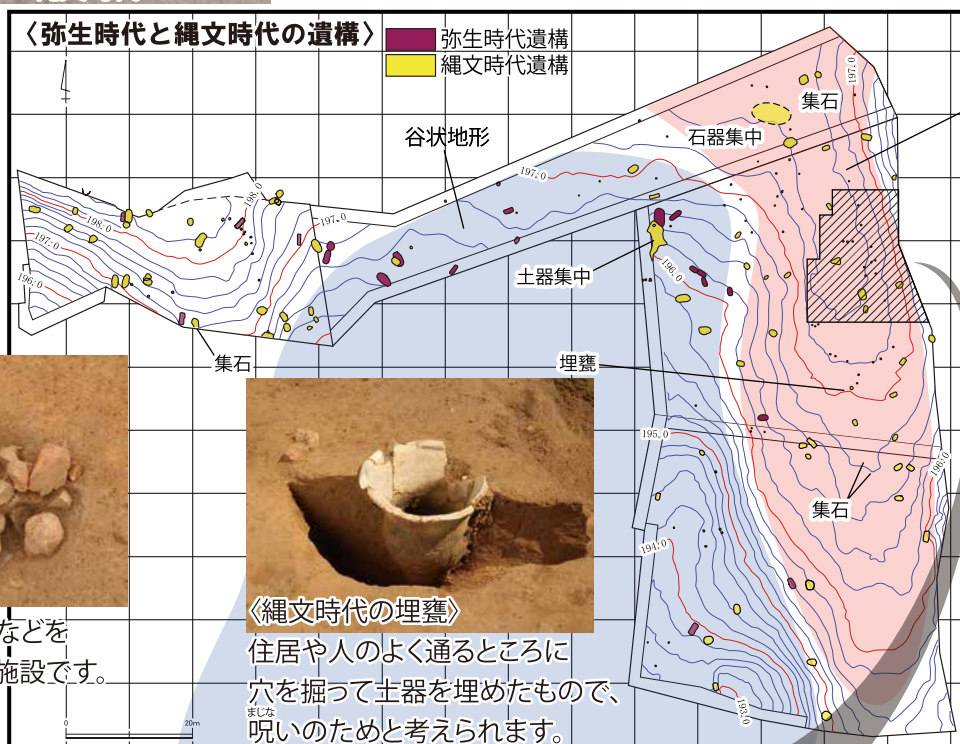
弥生時代

縄文時代

縄文時代と弥生時代の落とし穴が多数見つかりました。
弥生時代と縄文時代は落とし穴の形や作り方が異なりますが、同じような場所に作られていました。
縄文時代には落とし穴のほか、埋甕や集石、土器集中、石器製作跡と考えられる石器集中範囲が見つかりました。

《弥生時代と縄文時代の遺構》

弥生時代遺構
縄文時代遺構



《縄文時代の集石》

焼いた石を使って肉などを蒸し焼きにする調理施設です。

《縄文時代の埋甕》

住居や人のよく通るところに穴を掘って土器を埋めたもので、呪いのためと考えられます。

拡大

《旧石器時代の遺物出土状況》

土石流

折れた槍先形尖頭器

折損

3cm

黒曜石製の槍先形尖頭器

★ = 槍先形尖頭器
■ = 剥片集中範囲
■ = 炭化物集中範囲

10.0m

8cm

現在の蓼毛小林遺跡は南向きに緩やかに傾斜する、ほぼ平坦な地形ですが、旧石器時代から弥生時代にかけての間は上の図のように起伏のある地形だったことがわかりました。そして、谷状地形になっている部分では旧石器時代の土石流痕跡が見つかりました。

尾根の上には旧石器時代の「槍先形尖頭器」という石器が複数見つかり、中には折れてしまったものもありました。このほか数か所で小さな石のかけら（剥片）が集中する場所が見つかりました。こうした剥片は石器を作った時に飛び散ったもので、その集中範囲は石器製作跡と考えられます。